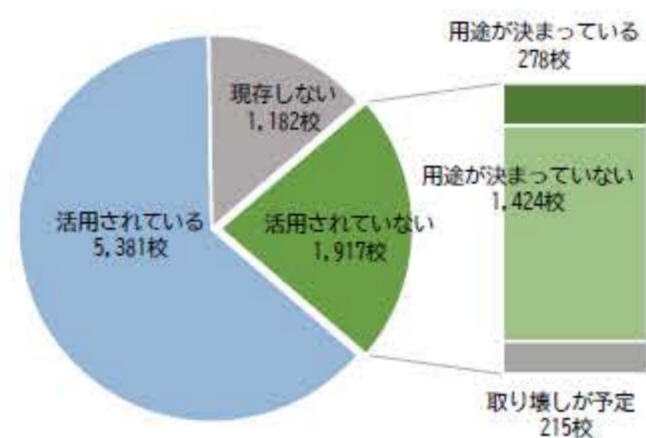




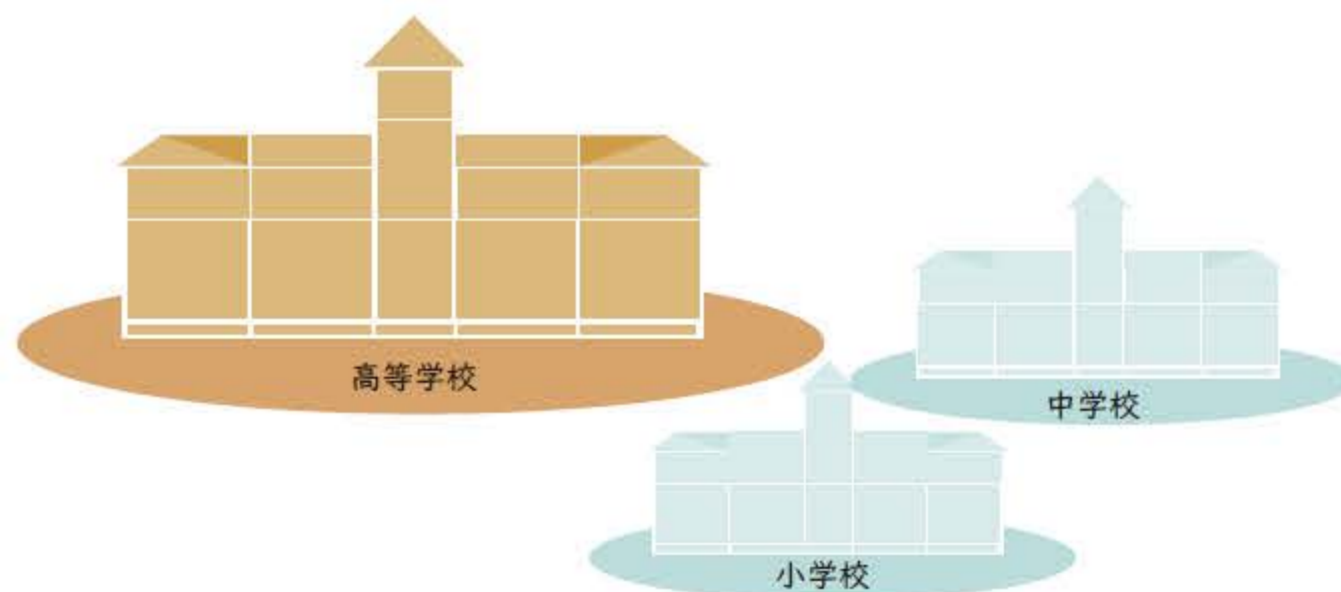
### 01. 廃校問題

小中高全ての廃校利用状況は

- ・廃校数：8,580校
  - ・施設が現存する廃校：7,398校（令和3年5月1日時点）
- となっており、その中でも高校の廃校率は約13.5%程



高等学校は敷地や校舎の規模が  
小学校の約2倍まで大きくなるため、  
周辺住民主体での運営が厳しい



(大きさいメージ図)

### 02. 対象敷地について

<稲沢市について>

- ・住民は約13万人、そのうち約70%が高齢者
- ・肥沃な大地により、植木の産地として栄えてきた
- ・名古屋から電車で約10分程度の距離にある
- ・名古屋市の発展に伴い、働き手などが住む住宅地としての期待が高まっている

<稲沢東高等学校について>

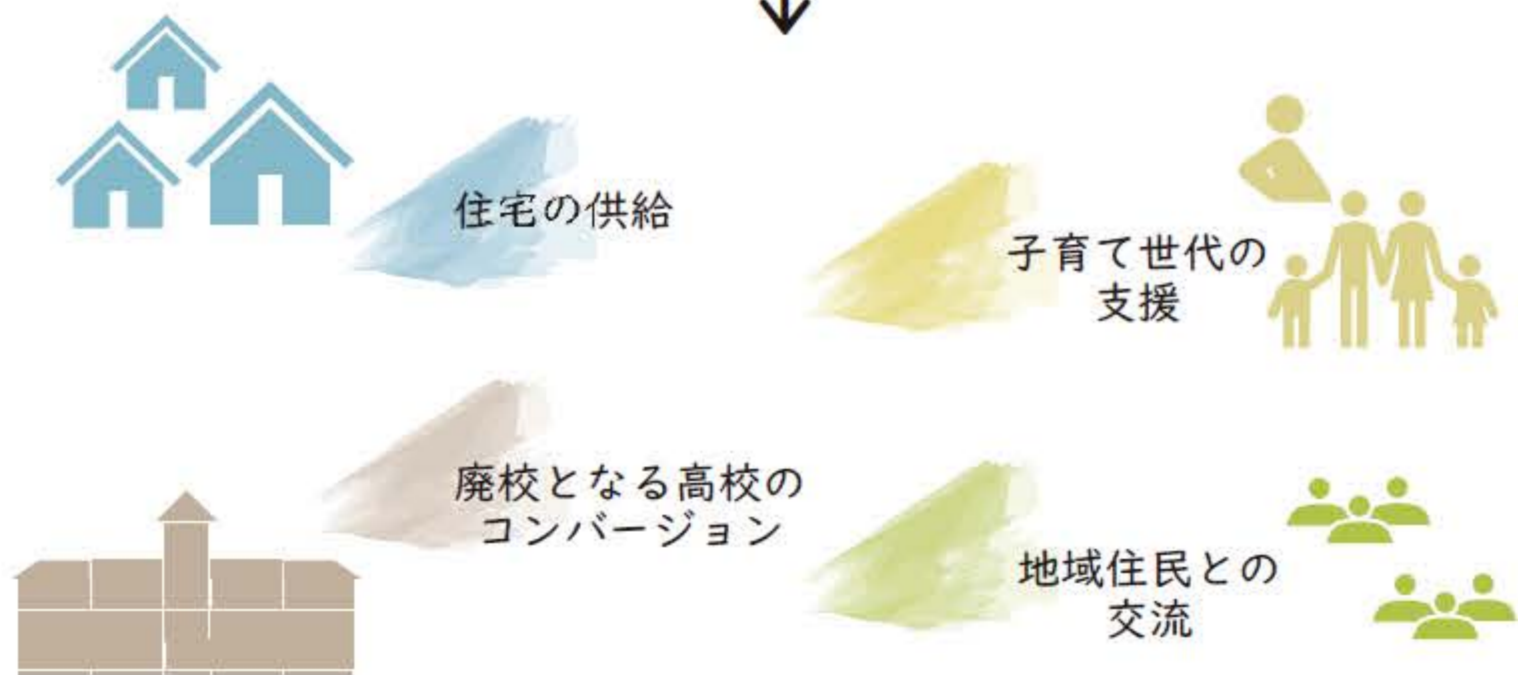
- ・学年規模は160～200人規模
- ・1971年設立、令和2年で創立50周年
- ・稲沢高校、尾西高校との3校統合が決定しており、令和7年で廃校となる



「稲沢市ステージアッププラン」より

定住促進      子育て環境  
                 充実      多種多様な  
                                 産業復興      次世代の  
   ための  
   行政改革

目指す街  
市民が暮らし続ける+名古屋圏で働く人が暮らしの場として惹かれる街  
課題：駅周辺や既存の住宅地の利便性向上や子育て環境充実



住宅の供給

いくつかのプランの住戸を作る

→これから1人暮らしをする人やこれから子育てをする人、  
老年期の人等多数の世代・世帯が同じ建物で交流しながら暮らしていく

子育て世代の支援

長期的・継続したサポートを受けられる場を作る

→住宅の一部に相談・診察が出来る施設を設けることで、支援がより身近になり  
さまざまな住民同士が互いに助け合える環境を提供する

廃校となる高校のコンバージョン

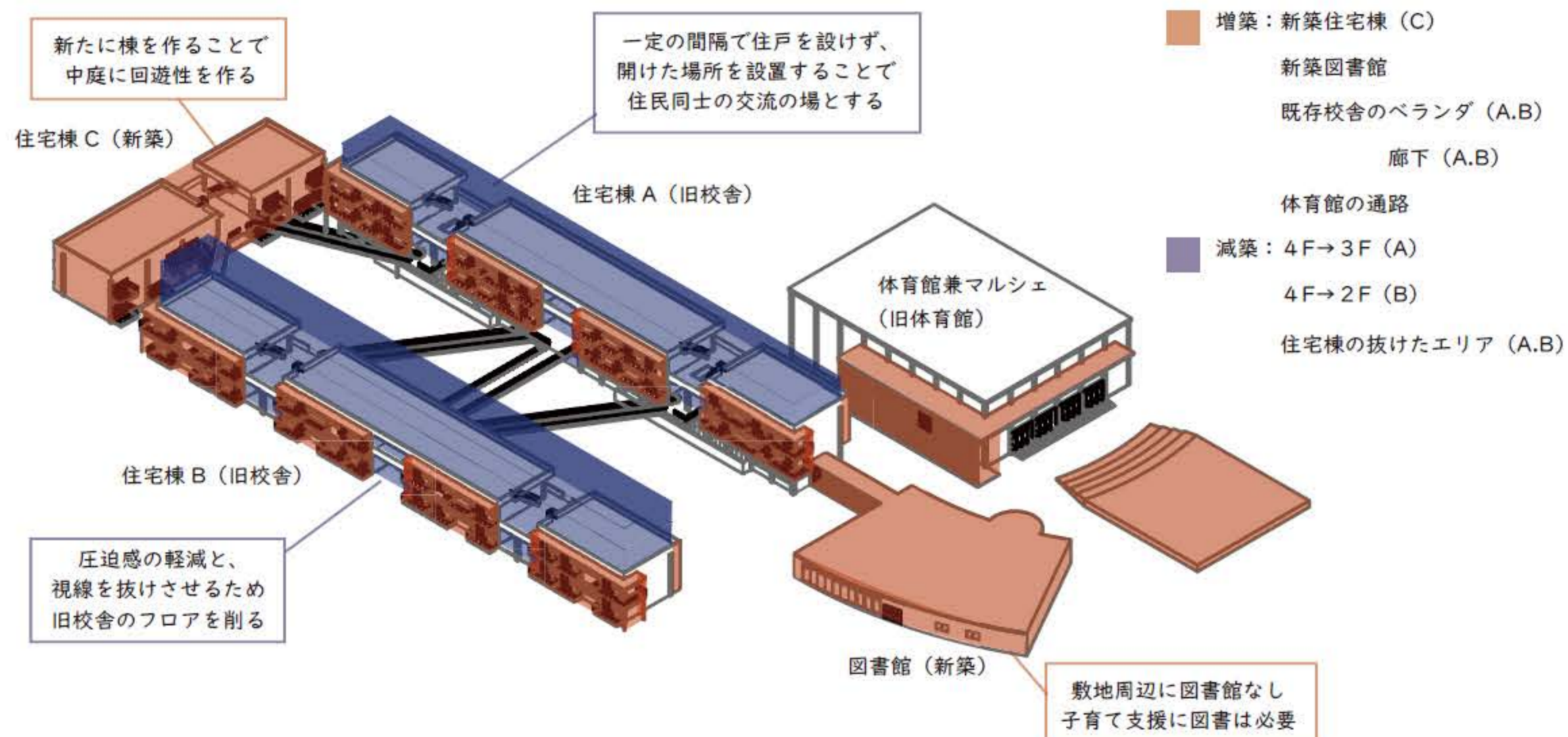
一つの建物やエリアをいくつかの要素を混ぜた施設にする

→高校の廃校活用のキャパシティ問題を解決すると共に  
地域と住民の交流の場を設ける

地域住民との交流

施設内・地域内に日常的に地域住民との交流エリアを作る

→日常的に地域と関わることで地域との交流を作り、  
地域住民も入りやすく活用しやすい施設を目指す



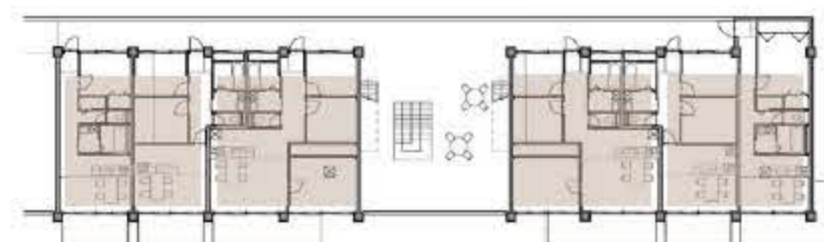
- 増築：新築住宅棟 (C)
- 新築図書館
- 既存校舎のベランダ (A,B)
- 廊下 (A,B)
- 体育館の通路
- 減築：4F→3F (A)
- 4F→2F (B)
- 住宅棟の抜けたエリア (A,B)

—高校をコンバージョンするうえでの工夫—

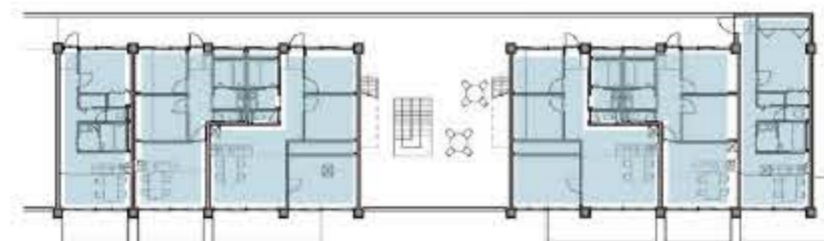
①教室と住戸の大きさの違い

教室1つ分の面積は一つの住戸にするには大きいため、分割して使用する

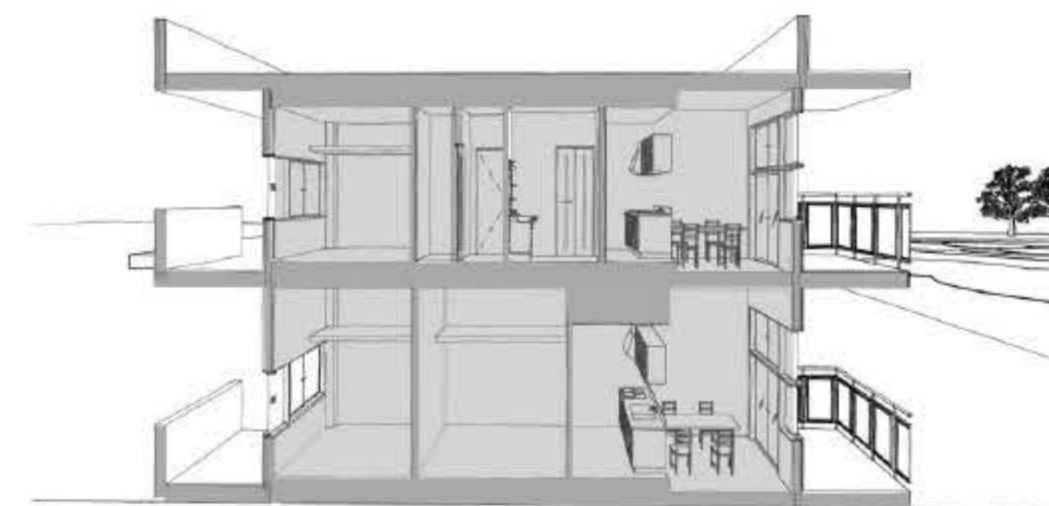
旧教室のエリアは天井高が通常の住宅よりも高いため、天井を下げることや、ロフトを使うなどで有効に活用する



■旧教室の面積



■新住戸の面積



②キャパシティが大きいこと

体育館などの規模が大きな建物をそのまま利用するのではなく、

既存の要素も残しつつ新たに要素を追加することで小さく多数に活用する



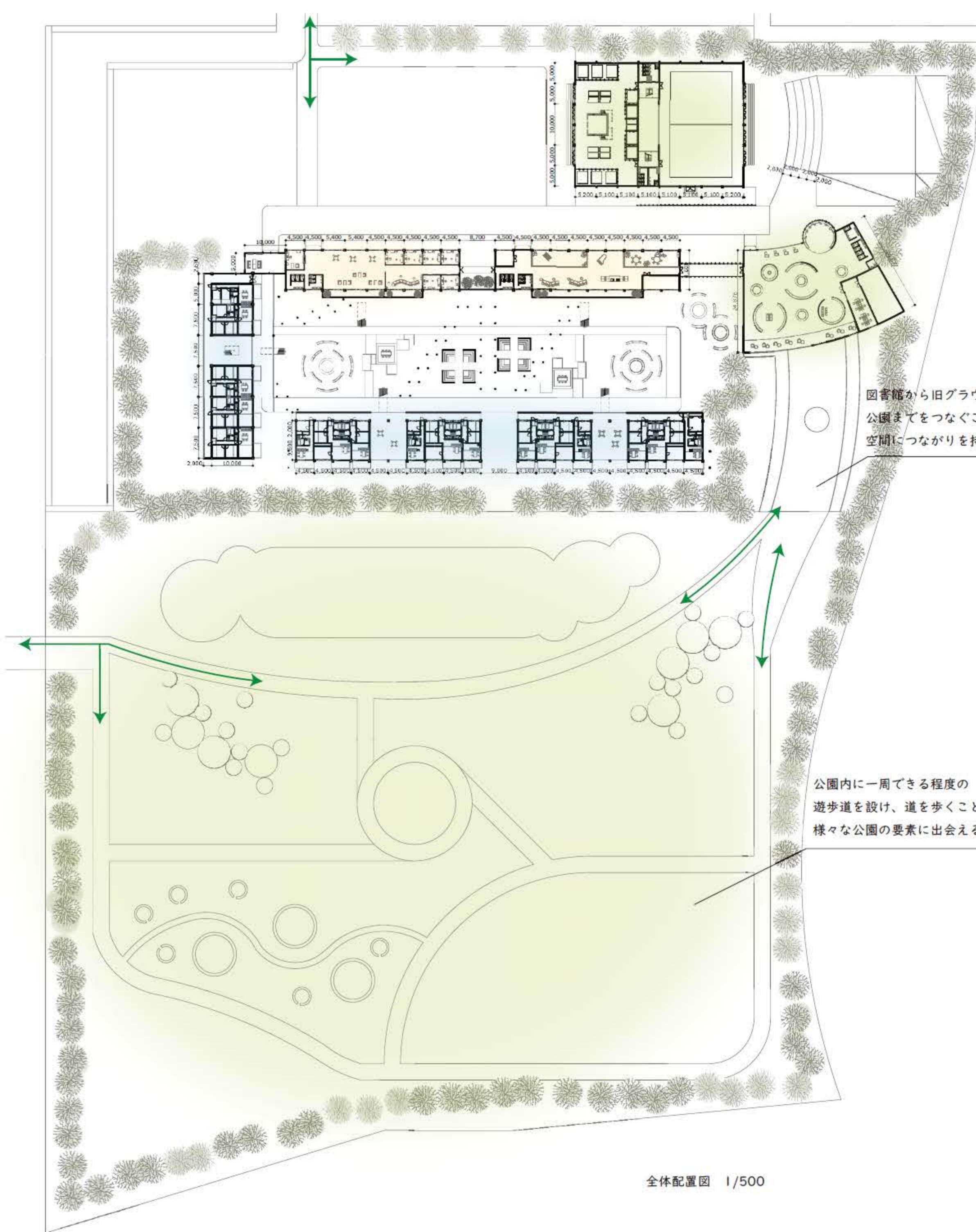
体育館西側



体育館内マルシェ1



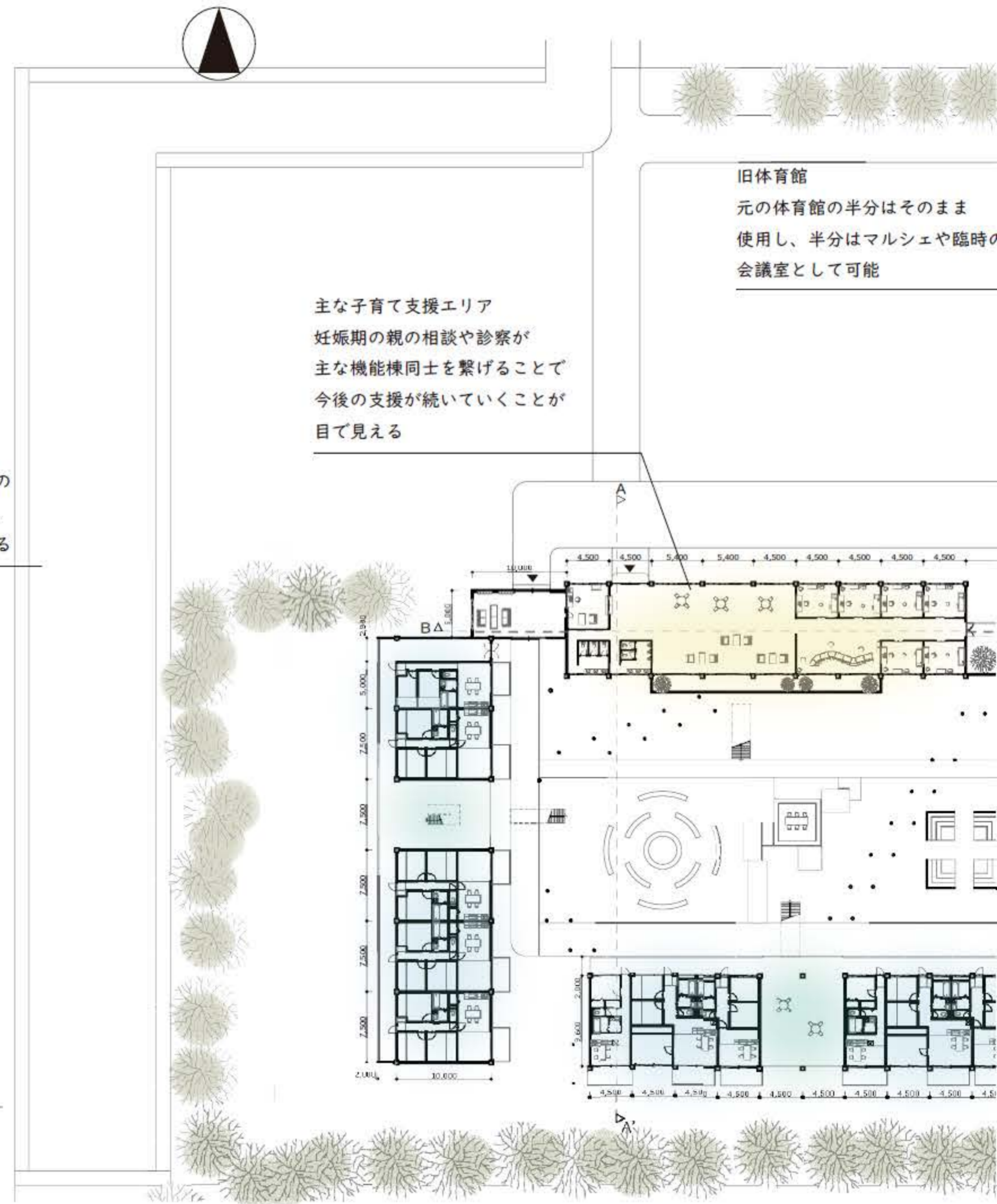
体育館内マルシェ2



全体配置図 1/500

図書館から旧グラウンドの公園までをつなぐことで、空間につながりを持たせる

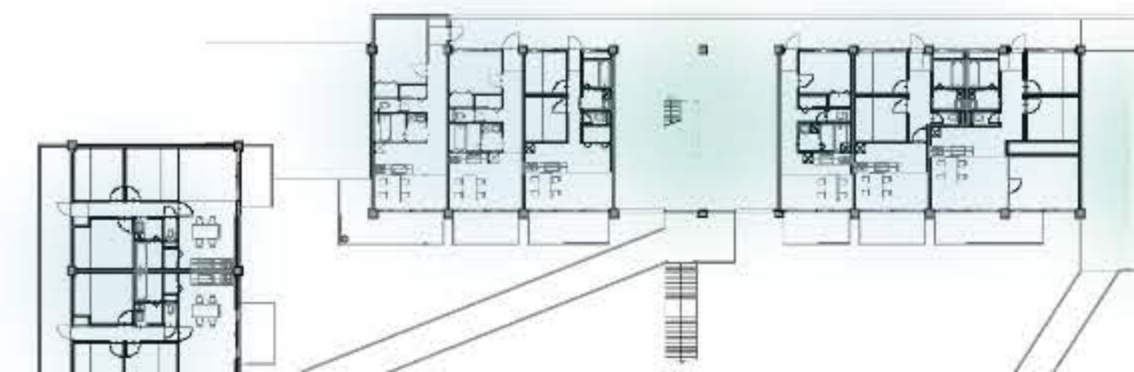
公園内に一周できる程度の遊歩道を設け、道を歩くことで様々な公園の要素に出会える



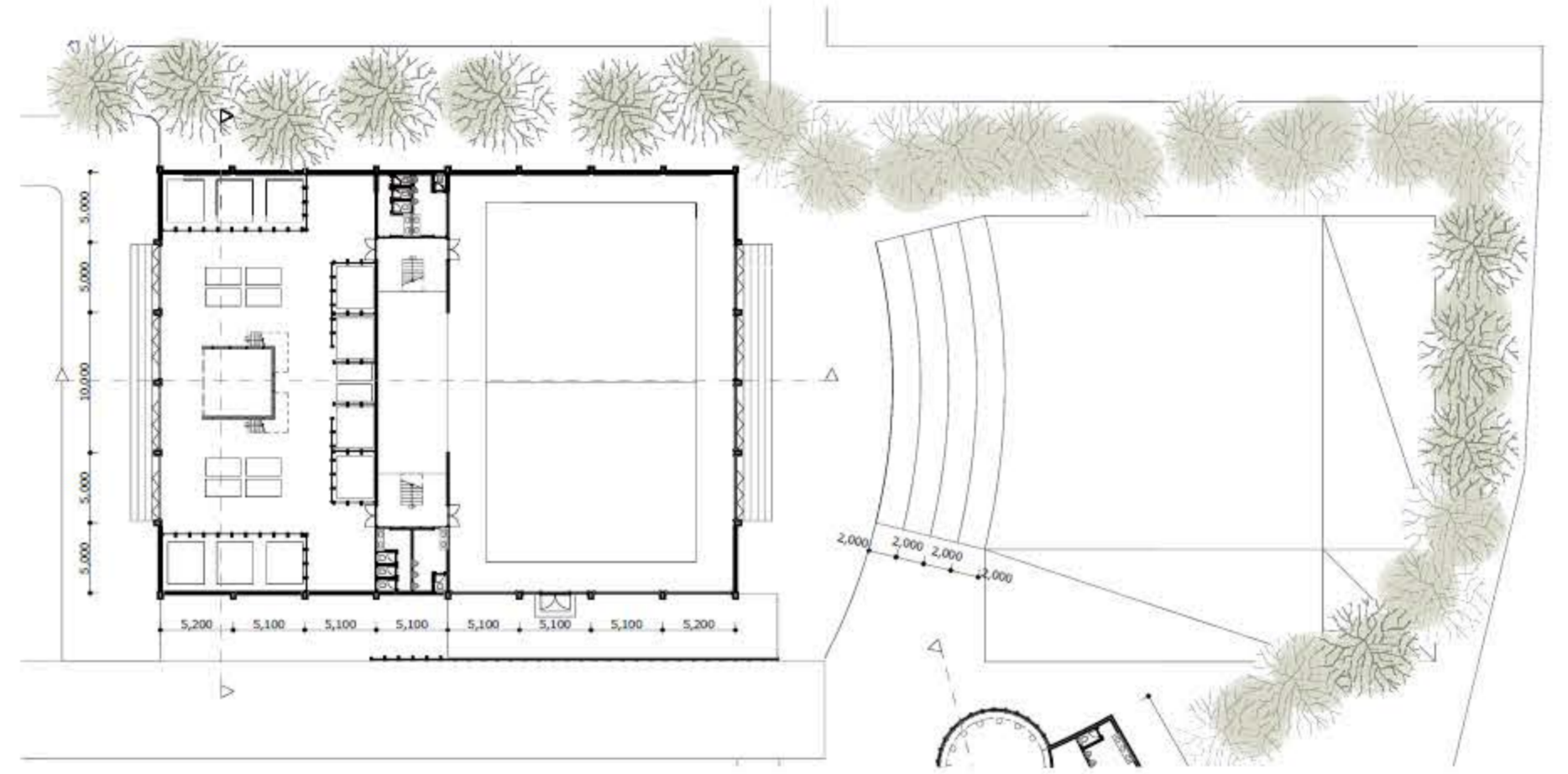
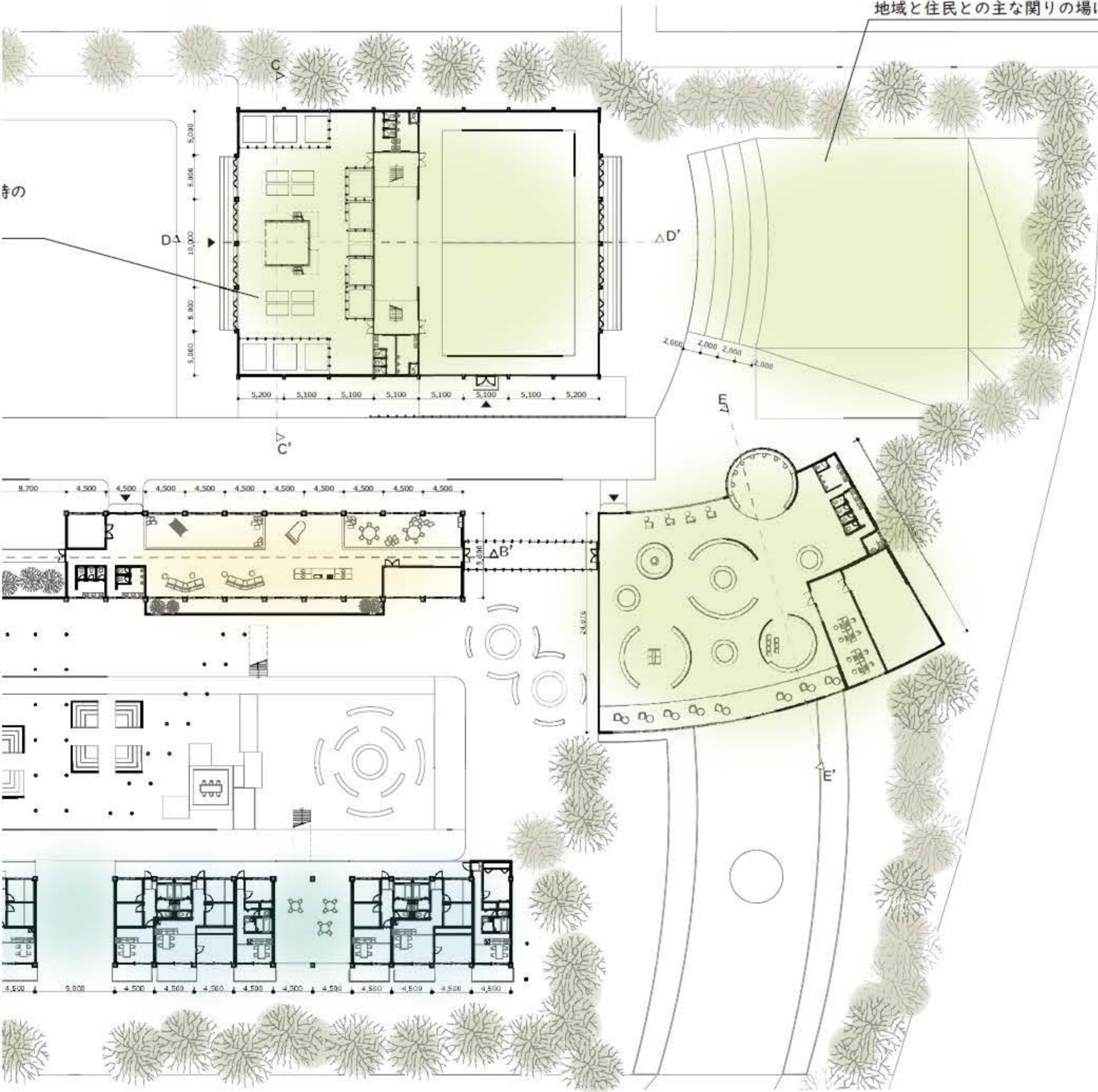
主な子育て支援エリア  
妊娠期の親の相談や診察が  
主な機能棟同士を繋げることで  
今後の支援が続いていくことが  
目に見える

旧体育館  
元の体育館の半分はそのまま  
使用し、半分はマルシェや臨時の  
会議室として可能

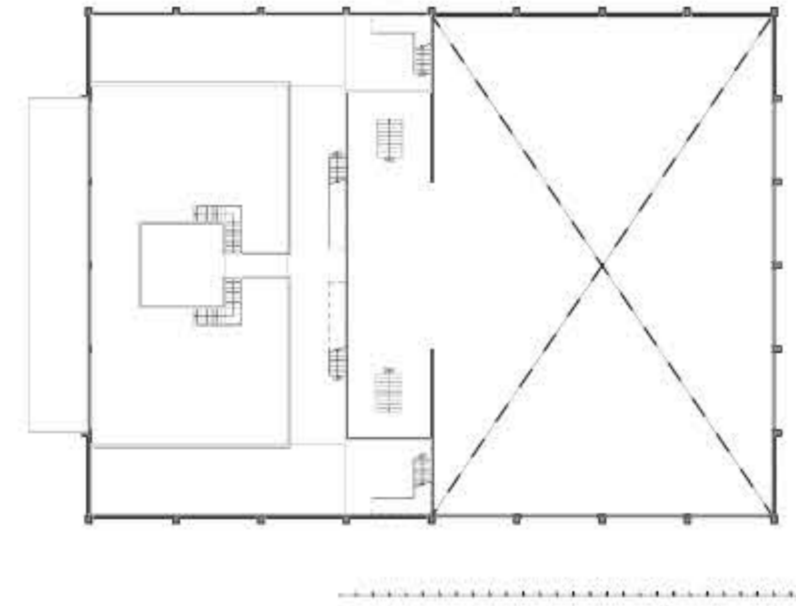
配置図兼IF平面図 1/300



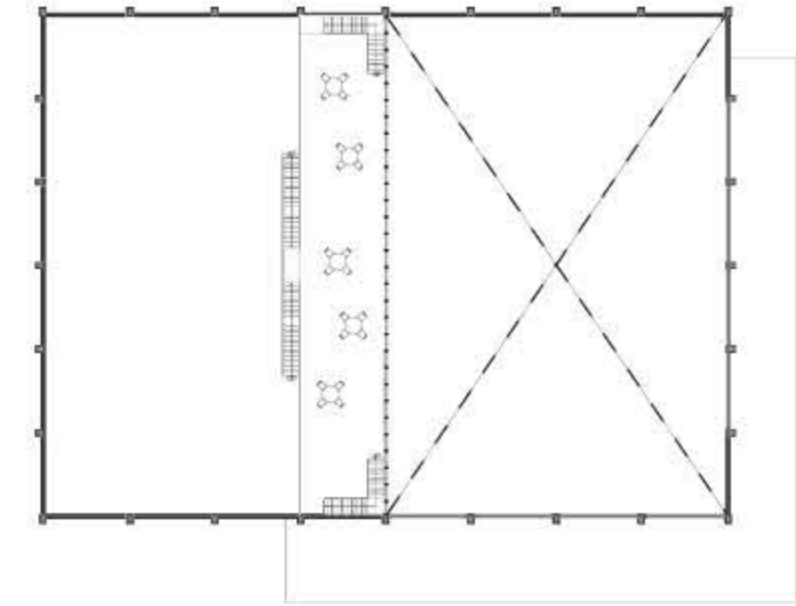
地域住民が主に活用できる  
 体育館前と図書館前の広場は  
 地域と住民との主な関りの場になる



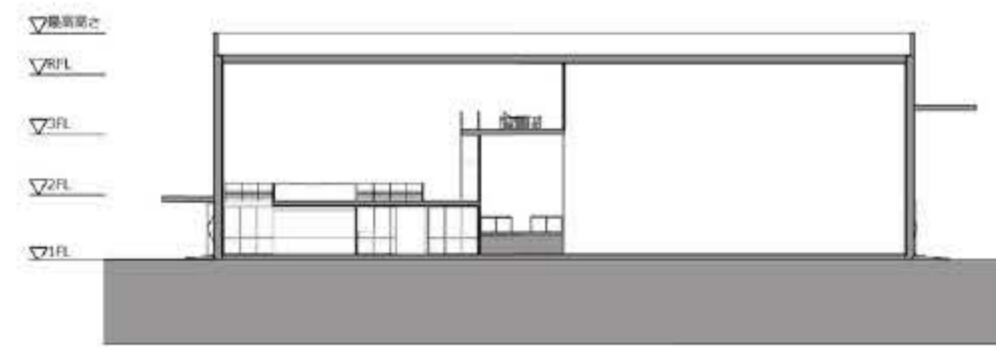
1F 体育館平面図 1/300



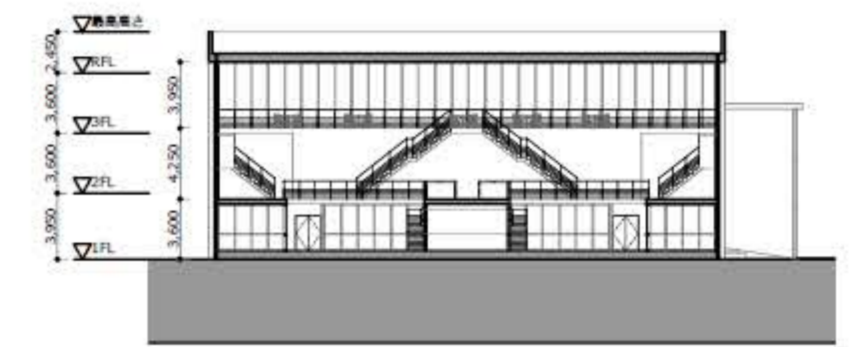
2F 体育館平面図 1/300



3F 体育館平面図 1/300

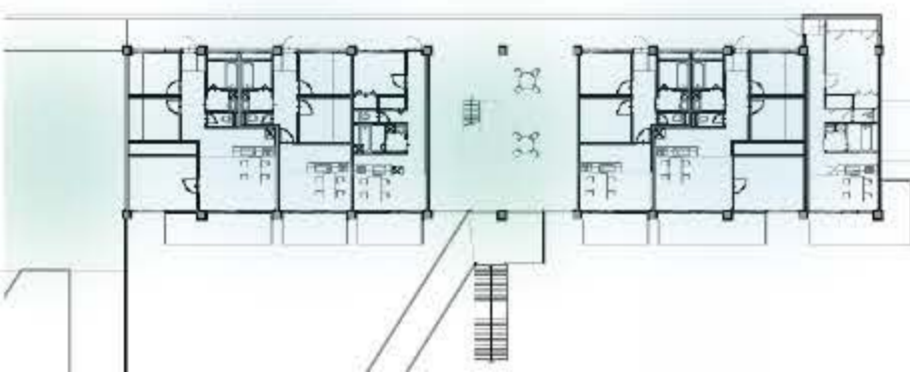


体育館断面図 C-C' 1/300



体育館断面図 D-D' 1/300

- 住居エリア
- 住民交流エリア
- 子育て支援エリア
- 地域交流エリア
- ← 動線

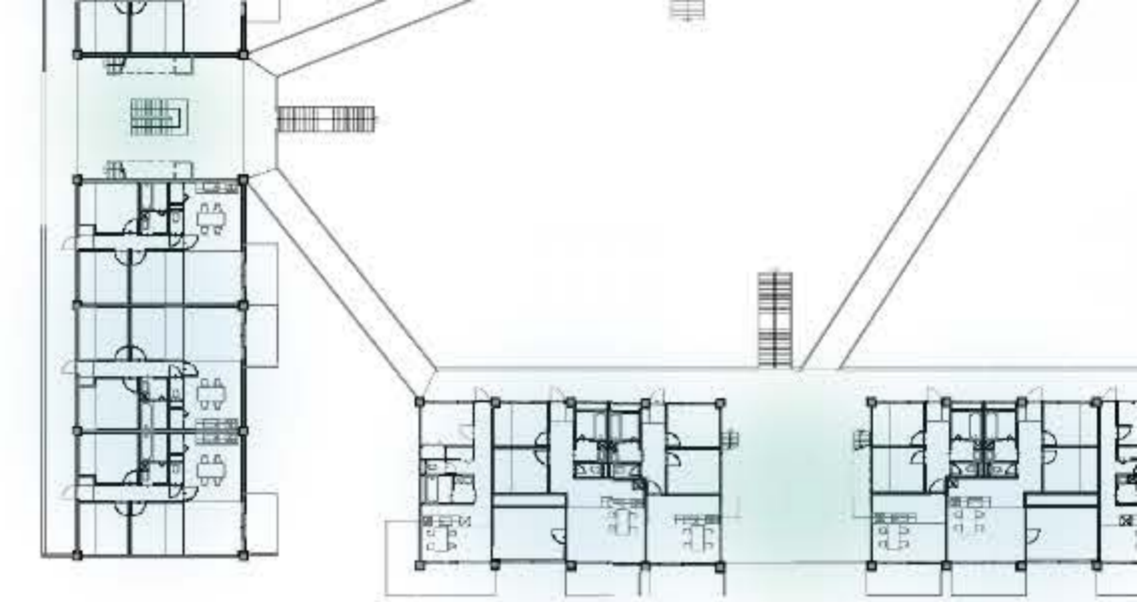




【中庭通路とBOX席】  
住民同士の交流、  
集いの場となる



【住宅北棟1F・子育て支援エリア】  
同年代同士の子どもや親同士が交流  
する場所となる



2F 住宅棟平面図 1/300



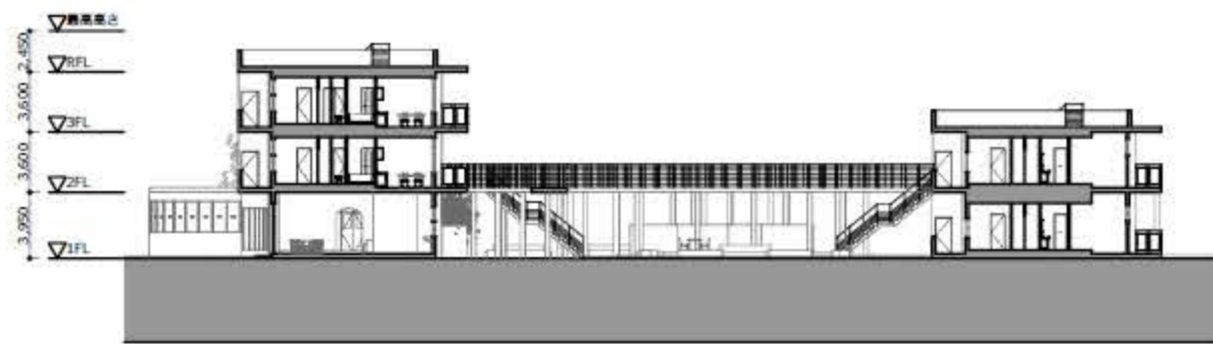
【中庭東側】  
住民の憩いの場や交流の場  
など様々な用途がある



【住宅北棟1F・診察エリア】  
簡単な診察や相談を専属のスタッフに  
してもらえる



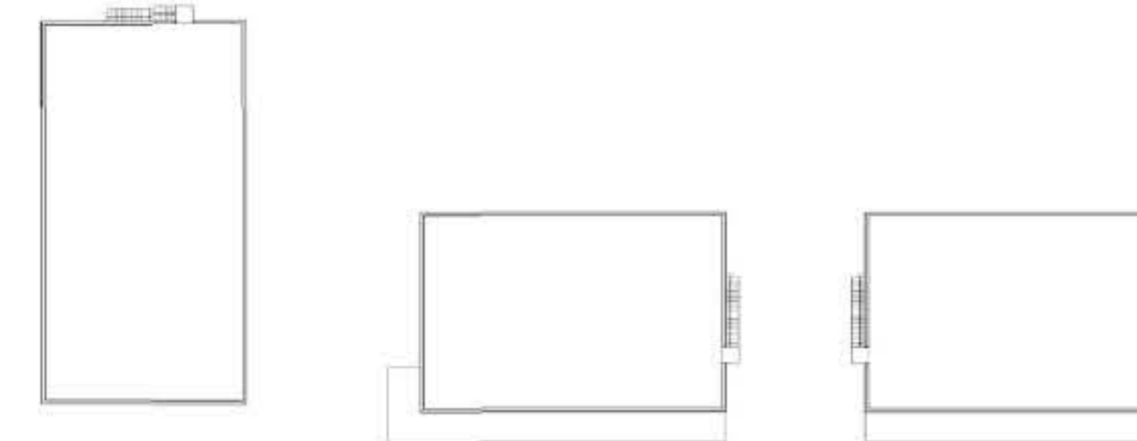
3F 住宅棟平面図 1/300



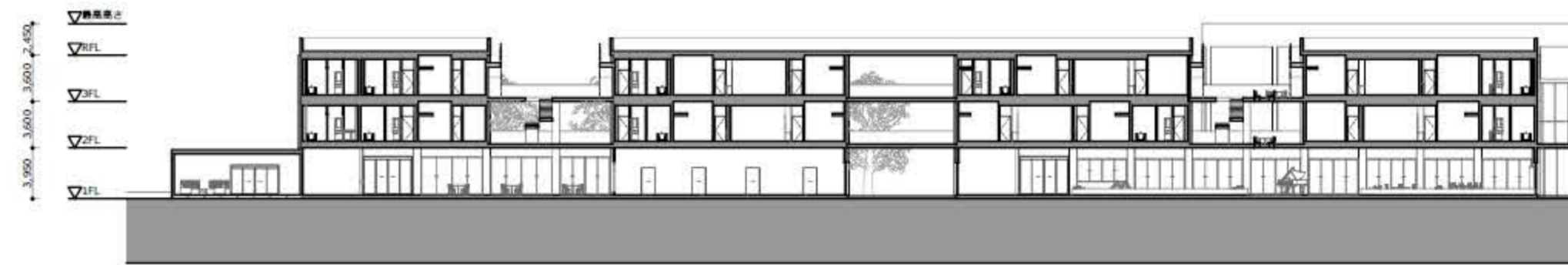
断面図 A-A' 1/300



【中庭目線高さ】  
一部芝生となっている中庭は走り回  
ることや、段差のあるウッドデッキが  
ちいさな遊び場・発達の場となる



住宅棟北側立面図 1/300



断面図 B-B' 1/300



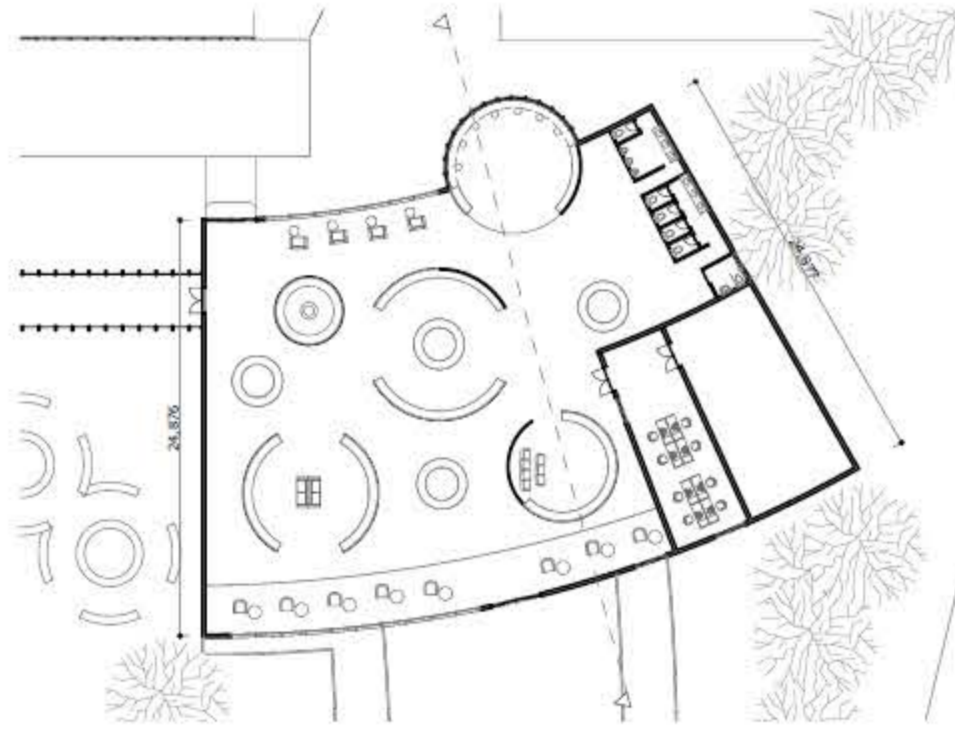
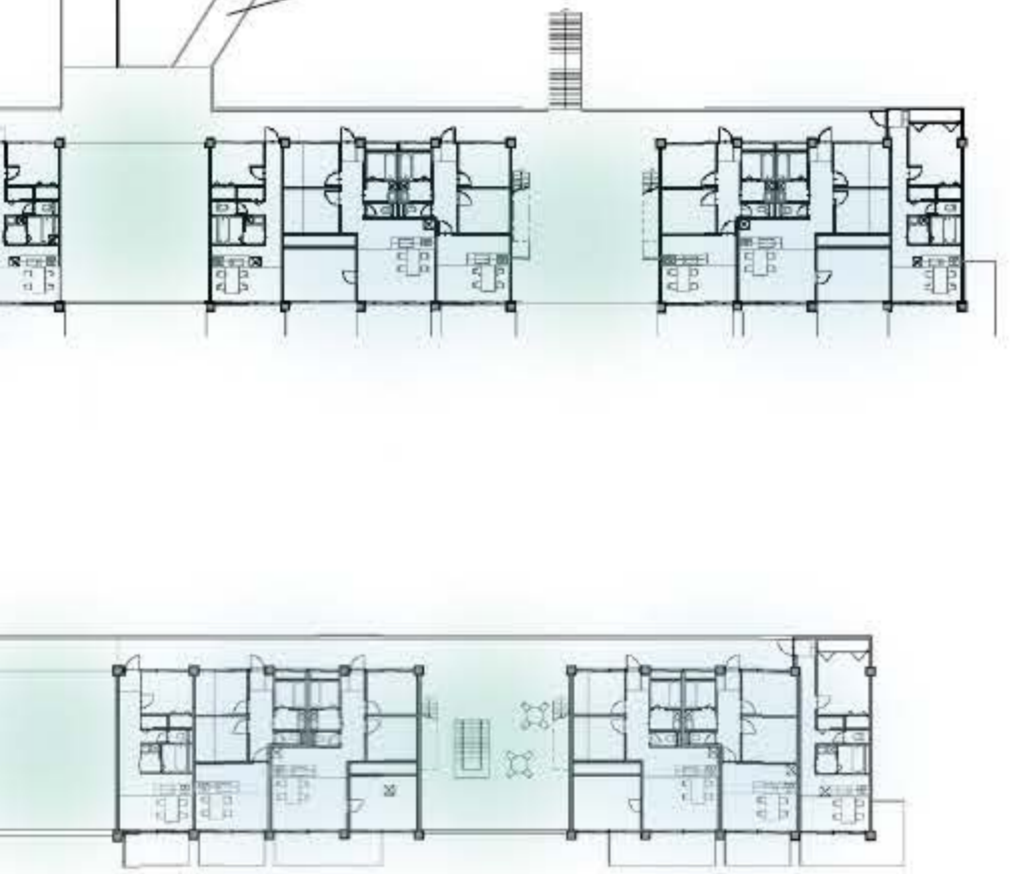
住宅棟南側立面図 1/300



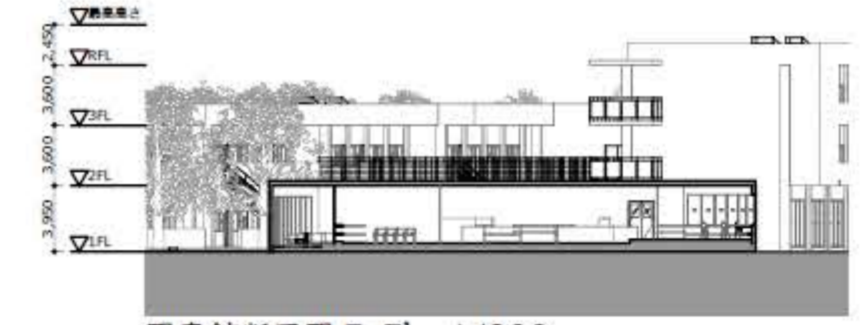
住宅北棟・南側立面図 1/300



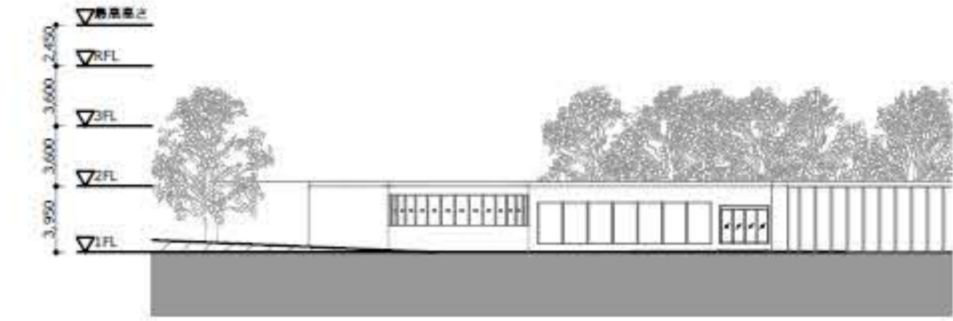
住宅棟のたまり場を各棟ごとに  
つなぐことで離れた棟の住民同士で  
も交流することが出来る



図書館平面図 1/300

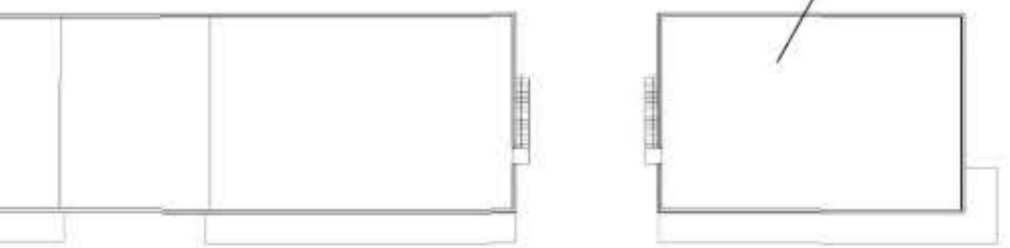


図書館断面図 E-E' 1/300



図書館立面図 1/300

屋上には出入りが可能  
住民同士での交流や  
家族での団樂、個人の時間など  
様々な形で使用可能



【体育館・図書館前広場】  
小規模な遊具の設置により、子どもが遊ぶと同時に  
子どもや保護者の人と地域の方が交流する



【公園と図書館をつなぐ道】  
図書館の南側からは公園へと続く道があり、  
道が続くことでどちらも踏み込むきっかけとなる



【図書館から体育館への視線】  
図書館北側にある円型に突き出たカウンター席の  
窓から体育館や広場を眺めることができる



【図書館内部】  
対象年齢別に分かれた本棚のブースが点在しており、  
主に子育てのための本や雑誌・教材などが置かれている